

いちねんせいが はじまるよ

配当時数	6+(10)時間 ※生活 6 時間、国語 1 時間、算数 1 時間、音楽 1 時間、図工 1 時間、体育 1 時間、道徳 1 時間、特活 4 時間		
配当時期	1 年 4 月	教科書ページ	上巻 p6-19
特に中心となる内容	(1)学校と生活		
活動の目標	クラスの友達や教師とさまざまな活動を行うことを通して、学校の施設の様子や人々について考えることができ、学校での生活はさまざまな施設や人々と関わっているということが分かり、楽しく安心して学校生活を送ることができるようにする。(スタートカリキュラム)		

※本指導計画は、生活科以外の教科等の内容・時数も含めた、「スタートカリキュラム」の活動を示す。

■「スタートカリキュラム」とは

入学当初に、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくるカリキュラムのこと。幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する重要な役割を担う。

■カリキュラムを作成する際のポイント

- ・幼稚園教育要領等に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の 10 項目を踏まえる。
- ・生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定をする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

(1)健康な心と体	(2)自立心	(3)協同性	(4)道徳性・規範意識の芽生え
(5)社会生活との関わり	(6)思考力の芽生え	(7)自然との関わり ・生命尊重	(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
(9)言葉による伝え合い	(10)豊かな感性と表現		

スタートカリキュラム期の活動は、「安心をつくる時間」、「生活科を中心とした学習活動」、「教科等を中心とした学習活動」というように、内容ごとに区分して、毎日の活動を構成するとよい。その際、入学当初の児童の発達特性や、この時期の学びの特徴を踏まえて、45 分の授業時間を 10 分から 15 分程度の短い時間に区切ったり、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆっくりと進めていけるようにしたりするなど、弾力的に時間割を設定するとよい。「安心をつくる時間」は、各教科等の時間ではなく、「授業時数以外の教育活動」として位置付けてもよい。

活動	活動目的	詳細	教科書対応ページ
「安心をつくる時間」	安心感をもち、新しい人間関係を築く。歌や手遊び、読み聞かせなどの活動。	担任や同級生とお話をする	主に p6-9
		朝の準備をする、給食準備をする、みんなで遊ぶ	主に p10-11
「生活科を中心とした学習活動」	生活科（学校探検など）を中心とした学習。 合科的・関連的な指導。	学校探検、春遊び	主に p12-15
「教科等を中心とした学習活動」	各教科等の学習。 教科書の使用。	名前を書く、名刺交換（国語、書写） 1 から 10 までの数（算数） みんなで歌う（音楽） 好きなものを描く（図画工作） 遊具遊び、集団遊び（体育） 学校生活、集団生活（道徳）	主に p18-19

活動	紙面	活動イメージと留意点
「安心をつくる時間」	いちねんせいが はじまるよ	・小学校入学のイメージ。児童の緊張を和らげ、小学校生活への期待を後押しするように、学校は楽しいところであるということがイラストで表現されている。また、教師や上級生などの学校内外のさまざまな人が新一年生を歓迎している。 ・教科書 p6-8 のイラストを見て、「どんな人がいるかな」「どんなものがあるかな」などと問いかけ、児童の知っているものや、好きなものについて話すとよい。
	生活 1 時間／上 p6-9	
	わたしの がっこう	・登校後、「下駄箱」や「ロッカー」など、小学校生活で出会う場所や設備を使用して、朝の支度を自分でする。また、同級生との交流、読み聞かせなどの「安心をつくる時間」を過ごしたり、流し台をはじめとする小学校の施設を使用したり、給食の準備をしたりするなど、小学校の生活環境に慣れていく活動を示している。
	特活 4 時間／上 p10-11	
「生活科を中心とした学習活動」	たんけんして みよう	・生活科において次単元で行う学校探検の基礎となる活動を示している。学校内のさまざまなものを目にしたり、学校内のさまざまな人と関わったりすることで、興味・関心を広げていけるよう支援したい。 ・徐々に学校探検の活動につながっていく。そのため、評価においては学校探検の単元で特に中心となる、内容(1)の三観点について、総合的に評価するとよい。
	生活 3 時間／上 p12-13	
	こうていも たんけんしょう	・「たんけんして みよう」と同じく、生活科において次単元で行う学校探検の基礎となる活動を示している。校庭で見つかる春ならではのもの（植物や生き物）に気付くよう支援したい。 ・「たんけんして みよう」と同じく、徐々に学校探検の活動につながっていく。そのため、評価においては学校探検の単元で特に中心となる、内容(1)の三観点について、総合的に評価するとよい。 ・児童が安心感をもてるよう、幼稚園等での遊びを意識的に取り入れて、クラスみんなで楽しめる遊びを行う。 ・巻末付録「きせつの なかまたち」より、「はるの なかまたち」を使用してもよい。
	生活 1 時間／上 14-15	
	わたし できるよ	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の 10 項目が、小学校生活で発揮されている様子を示している。児童が、これまでの生活での学びや経験を生かして学習や学校生活を送れるように支援する。
	生活 1 時間／上 p16-17	
「教科等を中心とした学習活動」	しりたいな、やって みたい	・各教科（国語、書写、算数、音楽、図工、体育、道徳）の萌芽的な活動を示している。こうした活動を受けて、各教科等への本格的な学習につながっていく。 ・評価においては、各教科等の評価規準や内容に即しながら、総合的に評価するとよい。
	国・算・音・図・体・道 各 1 時間 ／上 18-19	

他教科（■）・他単元（●）との合科・関連 >>>

- 友達や教師と仲よくする（道徳）
- 学校生活で見つけたものについて話し合う（国語）
- 名刺を作ったり、名刺交換をしたりする（国語、書写、図工）
- 学校にあるものの数を数える（算数）
- みんなで歌を歌う（音楽）
- 体全体を使ったり、遊具を使ったりして遊ぶ（体育）
- 学校生活で見つけたものを絵に描く（図工）
- 生命尊重、動植物愛護、あいさつ（道徳）